

日本国特許庁  
JAPAN PATENT OFFICE

10/026467  
12/27/01  
U.S. PRO  
JCS556

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出願年月日

Date of Application:

2001年 1月12日

出願番号

Application Number:

特願2001-005638

出願人

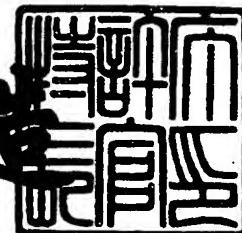
Applicant(s):

株式会社壽

2001年12月 7日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

及川耕三



【書類名】 特許願  
【整理番号】 KB00-18  
【あて先】 特許庁長官 殿  
【国際特許分類】 B43K 24/10  
【発明の名称】 複合保持具  
【請求項の数】 5  
【発明者】  
【住所又は居所】 埼玉県川越市大字鯨井138番地 株式会社壽 川越工場内  
【氏名】 陰山 秀平  
【発明者】  
【住所又は居所】 埼玉県川越市大字鯨井138番地 株式会社壽 川越工場内  
【氏名】 新井 幸夫  
【発明者】  
【住所又は居所】 埼玉県川越市大字鯨井138番地 株式会社壽 川越工場内  
【氏名】 山本 典  
【特許出願人】  
【識別番号】 000156134  
【氏名又は名称】 株式会社壽  
【代理人】  
【識別番号】 100097250  
【弁理士】  
【氏名又は名称】 石戸 久子  
【選任した代理人】  
【識別番号】 100101111  
【弁理士】  
【氏名又は名称】 ▲橋▼場 満枝

【選任した代理人】

【識別番号】 100101856

【弁理士】

【氏名又は名称】 赤澤 日出夫

【選任した代理人】

【識別番号】 100103573

【弁理士】

【氏名又は名称】 山口 栄一

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 038760

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 複合保持具

【特許請求の範囲】

【請求項1】 所定の用途に供される媒体を保持する保持具本体と、該保持具本体に被着されるキャップとからなり、

該キャップは、前記媒体と異種又は同種の用途に供される媒体を夫々保持した複数の保持体を収納するキャップ本体と、キャップ本体内で前記保持体を軸方向に移動可能に支持する支持部と、キャップ本体内に設けられ、複数の保持体のいずれかを選択的に前進させる繰出し機構と、繰出し機構を作動するための操作機構と、を備え、操作機構を操作することにより、繰出し機構を作動させて複数の保持体のいずれかの保持体の先端をキャップ本体の先端の先端開口から突出させて使用可能とするものである。

ことを特徴とする複合保持具。

【請求項2】 前記支持部に支持される保持体の被支持部は、支持部に対して回動自在に支持されることを特徴とする請求項1記載の複合保持具。

【請求項3】 前記支持部と、前記各保持体に設けられた被支持部との間に球面軸受が形成されることを特徴とする請求項1記載の複合保持具。

【請求項4】 前記球面軸受は、前記支持部及び保持体に設けられた被支持部のいずれか一方に形成された球状部と、前記支持部及び保持体に設けられた被支持部のいずれか他方に形成され前記球状部を受ける凹面部と、から構成されることを特徴とする請求項1記載の複合保持具。

【請求項5】 前記媒体が、筆記芯、インキ、固形糊、消しゴム、修正液等の文具用の媒体と、口紅、アイペンシル、アイライナ、アイブローペンシル等の化粧用の媒体と、スタイルスチップ等のデータ入力用の媒体とから成るグループから選択された媒体であることを特徴とする請求項1ないし4のいずれか1項に記載の複合保持具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、文具用の媒体（例えば、筆記芯、インキ、固形糊、消しゴム、修正液）、化粧用の媒体（例えば、口紅、アイペンシル、アイライナ、アイブローペンシル）、またはデータ入力用の媒体（例えば、スタイルスチップ）等の複数の媒体を保持する複合保持具に関する。

#### 【0002】

##### 【従来の技術】

従来の複合保持具としては、例えば、特公昭55-38280号公報に記載されたものが知られている。この従来例では、先端開口を有する軸ケースと、軸方向に延びる直径的に相対向する2つのガイド溝を有しており、軸ケースの後端開口に固着されたガイドと、対応するガイド溝に案内されるスライダを有するシャープペンシル要素（保持体）とボールペン要素（保持体）と、前記ガイドの周りを一定角度回転可能でかつ該ガイドに関して軸方向に推移可能に該ガイドを包囲し、一方へ回動するときは前記両保持体のうちの一方の保持体の先端を前記軸ケースの先端開口から突出せしめ、他方へ回動するときは前記一方の保持体を後退せしめて他方の保持体の先端を前記軸ケースの先端開口から突出せしめるよう、前記スライダと係合するカムスライド面を下端面に形成したスリープ作動カムとからなっている。

#### 【0003】

##### 【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、かかる公報に記載された複合保持具では、筆記芯を保持するシャープペンシル要素（保持体）とインキを保持するボールペン要素（保持体）の2本の保持体を選択的に使用することができるだけであり、シャープペンシルと一色ボールペンとしての機能しかなく、保持している媒体の数が限定されるため、使用範囲が狭いという問題がある。

#### 【0004】

本発明はかかる課題に鑑みなされたもので、既存の複合保持具よりもより多くの媒体を保持することができる複合保持具を提供することをその目的とする。

#### 【0005】

##### 【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために本発明のうち請求項1記載の発明による複合筆記具は、所定の用途に供される媒体を保持する保持具本体と、該保持具本体に被着されるキャップとからなり、

該キャップは、前記媒体と異種又は同種の用途に供される媒体を夫々保持した複数の保持体を収納するキャップ本体と、キャップ本体内で前記保持体を軸方向に移動可能に支持する支持部と、キャップ本体内に設けられ、複数の保持体のいずれかを選択的に前進させる繰出し機構と、繰出し機構を作動するための操作機構と、を備え、操作機構を操作することにより、繰出し機構を作動させて複数の保持体のいずれかの保持体の先端をキャップ本体の先端の先端開口から突出させて使用可能とするものである、ことを特徴とする。

#### 【0006】

保持具本体で媒体を保持すると共に、キャップのキャップ本体内に複数の保持体を収納しており、キャップに備えられた操作機能を操作することにより、選択的にキャップ本体の先端の先端開口から任意の保持体を突出させて、使用することができる。このために、保持する媒体を多数とすることができます、使用の範囲が広がることになる。

#### 【0007】

請求項2記載の発明は、請求項1記載のものにおいて、前記支持部に支持される保持体の被支持部は、支持部に対して回動自在に支持されることを特徴とする

#### 【0008】

繰出し機構の作動により複数の保持体のいずれかの保持体が前進すると、その先端が先端開口から突出する。このとき、キャップ本体内で保持体が収納されていた状態における保持体の先端の位置と、キャップ本体の先端の先端開口から突出された状態における保持体の先端の位置とが、径方向にずれていたとしても、保持体の被支持部が支持部に対して回動するために、保持体自体が大きく屈曲することなく、また、保持体がキャップ本体の内周面に当たって大きな抵抗を受けることなく、キャップ本体の先端開口から保持体の先端が突出することができる。従って、保持体に大きな屈曲性を必要としないために、保持体を構成する材料

または保持体の長さについて制約を受けて、従って、キャップのように軸方向に短い寸法しかとれないものであっても、保持体が円滑にキャップ内を移動することができる。

## 【0009】

前記支持部と、前記各保持体に設けられた被支持部との間に球面軸受が形成されることにより、被支持部が支持部に対して回動自在に支承される。この球面軸受は、前記支持部及び保持体に設けられた被支持部のいずれか一方に形成された球状部と、前記支持部及び保持体に設けられた被支持部のいずれか他方に形成され前記球状部を受ける凹面部と、から構成することができる。

## 【0010】

また、前記媒体は、筆記芯、インキ、固形糊、消しゴム、修正液等の文具用の媒体と、口紅、アイペンシル、アイライナ、アイブローペンシル等の化粧用の媒体と、スタイルスチップ等のデータ入力用の媒体とからなるグループから選択された媒体とすることができます。

## 【0011】

## 【発明の実施の形態】

以下、図面を用いて本発明の実施の形態を説明する。図1ないし図14は本発明の第1実施形態を表す図である。

## 【0012】

図において、符号10は複合保持具であり、この複合保持具10は、保持具本体12と、保持具本体12に着脱可能に被着されるキャップ14とを備えている。保持具本体12には、先端16aにボールを有し、インキを収容するレフィール16が組み込まれており、この保持具本体12はインキを保持するものとなっている。また、キャップ14は、レフィール16内のインキの蒸発・乾燥を防止するために、レフィール16の不使用時にその先端16aを保護するためのものであるが、単にそれだけではなく、その内部には、複数の保持体21、22が収納される。

## 【0013】

図4にキャップ14の拡大図を示す。キャップ14は、主として、複数の保持



体21、22を軸方向にほぼ重ねて収納するキャップ本体20と、キャップ本体20内で複数の保持体21、22を軸方向に移動可能に支持する支持部23と、キャップ本体20内に設けられ複数の保持体21、22のいずれかを選択的に突出させる繰出し機構24と、繰出し機構24を作動するための操作機構26と、を備えており、複数の保持体21、22を選択的に突出させて使用することができるものとなっている。保持体21、22として、図示の例では、保持具本体12のボールペンとは色または性質の異なるインキをそれぞれ収納する2本のボールペン軸となっている。以下、各機構を詳細に説明する。尚、説明においては、図3におけるキャップ14側を先側、保持具本体12側を後側とする。

#### 【0014】

キャップ本体20は、外側キャップ30と、後軸32と、尾冠34とから構成される。後軸32の後端は、外側キャップ30内に接着等の任意の固着手段により固着されており、従って、後軸32と外側キャップ30は、一体的に結合される。また、後軸32と外側キャップ30との間で、クリップ36の基部を挟着している。これらの後軸32、外側キャップ30及びクリップ36は、一体部品とすることも可能である。後軸32の先側には、尾冠34が後軸32に対して相対回転可能に配設される。尾冠34は、キャップ本体20内に配設されるスライド受け40の先端外周面に形成されたネジ部に螺着されており、螺着された状態で、尾冠34とスライド受け40は一体回転するようになっている。そして、尾冠34の先端にある先端開口34aが、キャップ本体20の先端開口として、前記保持体21、22の先端が選択的に突出されるためのものとなっている。

#### 【0015】

前記キャップ本体20のうちの一体となった外側キャップ30と後軸32の後部内側には、カムハウジング44と内側キャップ46とが固定される。内側キャップ46の先端部は、後軸32の後端内周面に形成されたネジ部に螺着されており、内側キャップ46の内側空間は、前記保持具本体12のレフィール16の先端16a(図3)が格納される空間となる。

#### 【0016】

内側キャップ46の先端と後軸32の段部32aとの間には、カムハウジング

44の鍔部44a(図5参照)が挿み付けられる。カムハウジング44には、図5に示すように、その先端側にカム面44bが形成されており、さらにカム面44bと周方向に対向して軸方向に突出するリブ44dが形成される。リブ44dが後軸32の対応する部分に形成された凹部32cにはまりこんで、カムハウジング44の後軸32に対する相対回転が禁止されて、カムハウジング44と後軸32とは一体となる。また、後軸32の内周面には、カムハウジング44のカム面44bに対応して、同様のカム面32bが形成されている。カムハウジング44が後軸32に固定された状態で、これらのカム面44bとカム面32bとの間には、軸方向のクリアランスが形成されており、このクリアランスがカム路48を構成する。このカム路48は、図6に示す如くに、展開図で見てほぼV字形状をなして、その突出端が先端側に位置づけられており、さらにその突出端においては、カム面44bに小さな凹部となつた係止部44cが形成されている。

#### 【0017】

前記尾冠34に螺着されるスライド受け40は、キャップ本体20内を軸方向に伸びており、図7及び図12に示すように、その後部には、係止片40a、40aが形成されている。これらの係止片40a、40aは、前記カムハウジング44の鍔部44aに径方向内側から係止され、スライド受け40に対して相対回転可能となっている。また、係止片40a、40aのさらに径方向内側には、前記内側キャップ46の頭部46aがはまりこんで、係止片40a、40aが径方向内側に倒れ込むのを防止しており、これによって、係止片40aが鍔部44aから外れるのが防止される(図8参照)。

#### 【0018】

さらに、スライド受け40には、収納される保持体21、22の本数に対応して軸方向に伸びるガイド溝40bが形成されており、このガイド溝40b内を保持体21、22が軸方向移動可能に配設される。即ち、保持体21、22の後端部には、被支持部としての保持体受け50が設けられ、この保持体受け50が、支持部23であるスライダー52に支持されており、スライダー52がスライド受け40のガイド溝40bにスライド可能にはめ込まれている(図9参照)。図10及び図11に示すように、保持体受け50は、その先部が保持体21、22

であるボールペン軸内に挿入されており、その後部が球面形状をした球状部50aとなっている。一方のスライダー52には、その内周面に球状部50aを支承する凹面部52aが形成されている。球状部50a及び凹面部52aとで球面軸受が形成され、スライダー52に対して保持体受け50が角度の自由度を持って回動自在に支承される。

#### 【0019】

スライダー52には、その外周面に突起52bが形成されており、突起52bが前記カム路48に摺動可能にはめ込まれる。また、スライダー52とスライド受け40の仕切り壁40cとの間には、リターンスプリング54が介挿されて、スライダー52を後方へと付勢している。リターンスプリング54は、スライダー52のガタ付きを防止するためのものであり、スライダー52の突起52bがカムハウジング44のカム面44bと後軸32のカム面32bとにより形成されたカム路48に、両カム面44b、32bにサンドイッチされた状態で嵌め込まれているので、カム路48が正確な寸法をもって形成されている場合には、省略することも可能である。図12に示すように、仕切り壁40cには、保持体21、22が挿通する貫通孔40d、40dが形成されており、各貫通孔40dの形状は、円形ではなく、径方向に長くなった長孔となっている。

#### 【0020】

以上のカム路48とスライダー52の突起52bとによって前記繰出し機構24が構成され、また、相対回転可能となった尾冠34と後軸32とによって前記操作機構26が構成される。

#### 【0021】

以上のように構成される複合保持具10のキャップ14の保持体21、22は、図3の状態においては、いずれもその先端が尾冠34の先端開口34aよりも内側にあって、軸方向に互いにほぼ重なり合って収納されており、このとき、それぞれの保持体21、22の保持体受け50を支持するスライダー52の突起52bは、カム路48の中間位置に位置付けられている（図6の収納位置）。

#### 【0022】

いずれかの保持体21、22を使用する場合には、次のように行う。即ち、後

軸32に対して尾冠34を所定の方向に回転する。これにより、尾冠34と一体のスライド受け40が後軸32に対して所定の方向に回転する。スライド受け40のガイド溝40bにはめ込まれたスライダー52、52も一体に回転するため、各スライダー52の突起52bがカム路48に沿って軸方向に移動し、2つのスライダー52のうちの一方が前進し、他方が後退する。前進したスライダー52に、保持体21の保持体受け50が支持されていたとすると、保持体21がスライダー52と共に前進する。このとき、前進した保持体21の保持体受け50は、前進するのに伴って、その球状部50aが凹面部52aを摺接して、保持体受け50がスライダー52に対して互いに一直線上にあった状態から回動して傾斜していくことにより、保持体21の先端の動きに追従していく。保持体21の先端は尾冠34の内周面に沿っていきながら、軸線上にある先端開口34aから突出する。カム路48を前進したスライダー52の突起52bは、カム路48の先端にある係止部44cに係止されると、前進した位置で停止する（図6の前進位置）。こうして、このスライダー52に支持された保持体21の先端が、先端開口34aから突出した状態に保持されて、図13の状態となり、保持体21は使用可能となる。また、他方の保持体22の保持体受け50を支持するスライダー52は、カム路48を後退して、図6の後退位置で停止する。

#### 【0023】

また、図3の状態から、後軸32に対して尾冠34を前述の所定の方向と反対の方向に回転すると、保持体22が前進して、保持体21が後退する。このときに、保持体22の保持体受け50は、その球状部50aが対応するスライダー52の凹面部52aを摺接して、スライダー52に対して回動して傾斜していくことにより、保持体22の先端の動きに追従していく。保持体22の先端が、先具34の内周面に沿っていきながら、軸線上にある先端開口34aから突出するのは、保持体21の前述した先端の動作と同様である。

#### 【0024】

前進した保持体21または22を後退させる場合には、後軸32に対して尾冠34を、保持体21または22を前進させたときと反対の方向に回転することにより、前進した保持体を支持するスライダー52の突起52bが、カム路48に

沿って軸方向に後退し、後退した保持体を所持するスライダー52の突起52bが、カム路48に沿って軸方向に前進して、図3の状態に戻る。球状部50aと凹面部52aとの関係も元の状態に戻る。

## 【0025】

このように、保持体21、22はキャップ本体20に引っ掛け抵抗を受けることもなく、円滑に出没することができる。従って、保持体21、22自体は屈曲せずとも円滑に突出することができるため、あまり長くはないキャップ14内に収まる短い寸法の保持体21、22とすることができるようになり、また例えば、保持体21、22に硬い金属製のパイプを使用することもできる。

## 【0026】

次に、この複合筆記具10の保持具本体12を使用する場合は、通常の方法により、キャップ14を保持具本体12から外して、図14に示すように、保持具本体12の後端にキャップ14を被せることにより、レフィール16の先端16aを露出させて、先端16aを用いた筆記を行うことができる。

## 【0027】

こうして、保持具本体12に組み込まれたフィール16のみならず、キャップ14内に収納された複数の保持体21、22を選択的に使用することができるため、既存の複合保持具よりも使用の範囲を広げることができる。

## 【0028】

図15は、第2実施形態を表す図であり、第1実施形態と同じ部材は同一の符号を付し、その詳細説明を省略する。この例では、一方の保持体62がシャープペンシル軸となっており、他方の保持体22が第1実施形態と同じボールペン軸となっている。このシャープペンシル軸である保持体62は、芯を収容する芯タンク62aと、芯タンク62aに連結される継手62bと、継手62bに後端が圧入されるチャック62cと、チャック62cの頭部に外嵌されるチャックリング62dと、チャックリング62dの後端位置を規制するスリーブ62eと、スリーブ62eと継手62bとの間に介挿されたリターンスプリング62fと、スリーブ62eに固着される先具62gと、先具62g内に設けられたパッキン62hとから構成される。

## 【0029】

また、この実施形態では、後軸32'のカム面32'bとカムハウジング44'のカム面44'b(図16)とによって形成されるカム路48'が、図16及び図17に示すように、シャープペンシル軸62に対応するスライダー52が摺動するカム路部48'-1と、ボールペン軸22に対応するスライダー52が摺動するカム路部48'-2とに分離されている。カム路部48'-1の先端よりもやや後退した位置において、カム面44'bには小さな凹部となった係止部44'cが形成され、カム路部48'-2の先端の位置において、カム面44'bには、小さな凹部となった係止部44'dが形成されている。

## 【0030】

この実施形態においても、ボールペン軸22の先端を突出させるのは、第1実施形態の場合と同じである。シャープペンシル軸62の先端を突出させる場合には、後軸32'に対して尾冠34を所定の方向に回転する。これにより、尾冠34と一体のスライド受け40が後軸32'に対して所定の方向に回転する。スライド受け40のガイド溝40bにはめ込まれたスライダー52、52も一体に回転するために、各スライダー52の突起52bがカム路48'に沿って軸方向に移動する。シャープペンシル軸62の保持体受け50を支持するスライダー52の突起52bがカム路部48'-1を前進して、シャープペンシル軸62の先端が尾冠34の先端開口34aから突出する。このとき、突起52bは係止部44'c付近まで達すると、シャープペンシル軸62の先具62gが先端開口34aに当接して、それ以上前進することができないようになっており、芯タンク62a、継手62b、チャック62c及びチャッククリング62dが、先具62g及びスリーブ62eに対して前進して、公知の方法により芯が繰り出される。尾冠34を回転する力を緩めると、リターンスプリング54及びリターンスプリング62fの付勢力によって、シャープペンシル軸62を支持するスライダー52の突起52bが係止部44'cへと後退して、図18に示すように、シャープペンシル軸62の先端が、先端開口34aから突出した位置に保持される。芯をさらに繰り出すには、尾冠34を所定方向に回転して、シャープペンシル軸62を支持するスライダー52の突起52bを係止部44'cの位置からカム路部48'-1

1の先端まで往復させることにより、芯を所定量づつ繰り出すことができる。

### 【0031】

この実施形態においても、シャープペンシル軸62である保持体は、その保持体受け50の球状部50aが、スライダー52の凹面部52aに支承されるために、シャープペンシル軸62の先端はキャップ本体20に引っ掛けられることなく、抵抗を受けることなく、キャップ本体20の先端開口34aから円滑に出没することができる。また、シャープペンシル軸62は屈曲しなくて良いために、チヤックを含む芯繰り出し機構の破損、曲がり、芯折れ等の不良の発生を防止することができる。

### 【0032】

以上の実施形態の他に、保持具として、スタイルスチップが保持されたスタイルスペン軸、消しゴムが保持された消しゴム軸、固体糊が保持された固体糊軸、または口紅等の化粧材が保持された化粧軸、とすることができる。これらのスタイルスペン軸、消しゴム軸または化粧軸は、ボールペン軸と同様に構成することができ、または、消しゴム軸及び化粧軸のように使用により消しゴムまたは化粧材が消耗するタイプのものは、消しゴム及び化粧材を芯材で保持し、この芯材をシャープペンシル軸における芯と同様に繰り出し可能として、これによって消しゴム及び化粧材を繰り出すようにしてもよい。また、この実施形態では、2本の保持体を例にとって説明したが、これに限るものではなく、3本以上の保持体がキャップ本体20内に収納される場合にも、同様に適用できることは勿論である。更に、上述した実施形態では、保持体に設けられた被支持部を球状部として構成し、支持部であるスライダーに前記球状部を受ける凹面部を形成した場合について説明したが、それとは逆に、スライダーに球状部を形成し、その球状部を受ける凹面部を保持体の被支持部に設けたものであってもよい。

### 【0033】

また、図19に示すように、保持具本体12に、インキを収容するカートリッジ18及びカートリッジ18が連結されるペン芯ユニット19とを組み込むこともでき、キャップ14を取り外すことにより、ペン芯ユニット19の先端を露出させて、ペン芯ユニット19を用いた筆記を行うことができる。こうして、保持

具本体12が保持する媒体とキャップ14内に収納される保持具が保持する媒体との種々の組み合わせを実現させることができる。

## 【0034】

## 【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、保持具本体で媒体を保持すると共に、キャップのキャップ本体内に複数の保持体を収納しており、キャップに備えられた操作機能を操作することにより、選択的にキャップ本体の先端の先端開口から任意の保持体を突出させて、使用することができる。このために、1つの複合保持具で多数の媒体を保持することができ、使用の範囲を広げることができる。

## 【図面の簡単な説明】

## 【図1】

本発明の第1実施形態による複合保持具の全体図である。

## 【図2】

保持具本体を表す図である。

## 【図3】

本発明の第1実施形態による複合保持具の縦断面図である。

## 【図4】

図3のキャップの拡大縦断面図である。

## 【図5】

カムハウジングの斜視図及び後軸の部分破断斜視図である。

## 【図6】

カムハウジングのカム面と後軸のカム面とによって形成されるカム路を表す展開図である。

## 【図7】

スライド受け、スライダー、保持体受け及び保持体を表す分解斜視図である。

## 【図8】

図3の8-8線に沿って見たスライド受けの係止片を表す断面図（説明のために一部省略している）である。

## 【図9】

図3の9-9線に沿って見たスライド受け、保持体受け及びスライダーを表す断面図（説明のために一部省略している）である。

## 【図10】

図3の矢印X方向から見たスライダーと保持体受けとを表す図である。

## 【図11】

保持体受けを表す平面図である。

## 【図12】

スライド受けの（a）は縦断面図、（b）は（a）の矢印b方向から見た図である。

## 【図13】

第1実施形態において一方の保持体が突出した状態を表す縦断面図である。

## 【図14】

第1実施形態の保持具本体の使用状態を表す図である。

## 【図15】

本発明の第2実施形態による複合保持具の縦断面図である。

## 【図16】

カムハウジングのカム面と後軸のカム面とによって形成されるカム路を表す展開図である。

## 【図17】

第2実施形態のカム路を表す説明斜視図である。

## 【図18】

第2実施形態において一方の保持体であるシャープペンシル軸が突出した状態を表す縦断面図である。

## 【図19】

第1実施形態において、別の保持具本体を備えた例である。

## 【符号の説明】

10 複合保持具

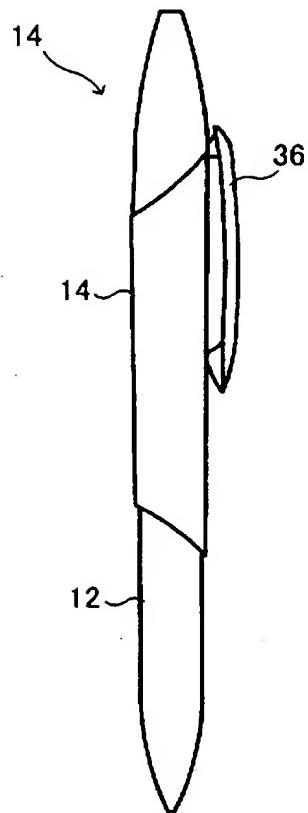
12 保持具本体

14 キャップ

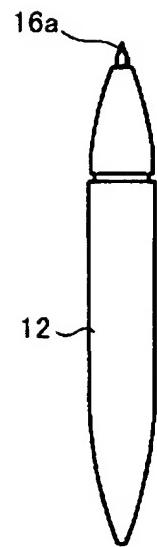
- 16 レフィール
- 18 カートリッジ
- 20 キャップ本体
- 21、22 ボールペン軸（保持体）
- 24 繰出し機構
- 26 操作機構
- 48 カム路（繰出し機構）
- 50 保持体受け（被支持部）
- 50a 球状部
- 52 スライダー（支持部）
- 52a 凹面部
- 52b 突起（繰出し機構）
- 48' カム路（繰出し機構）

【書類名】 図面

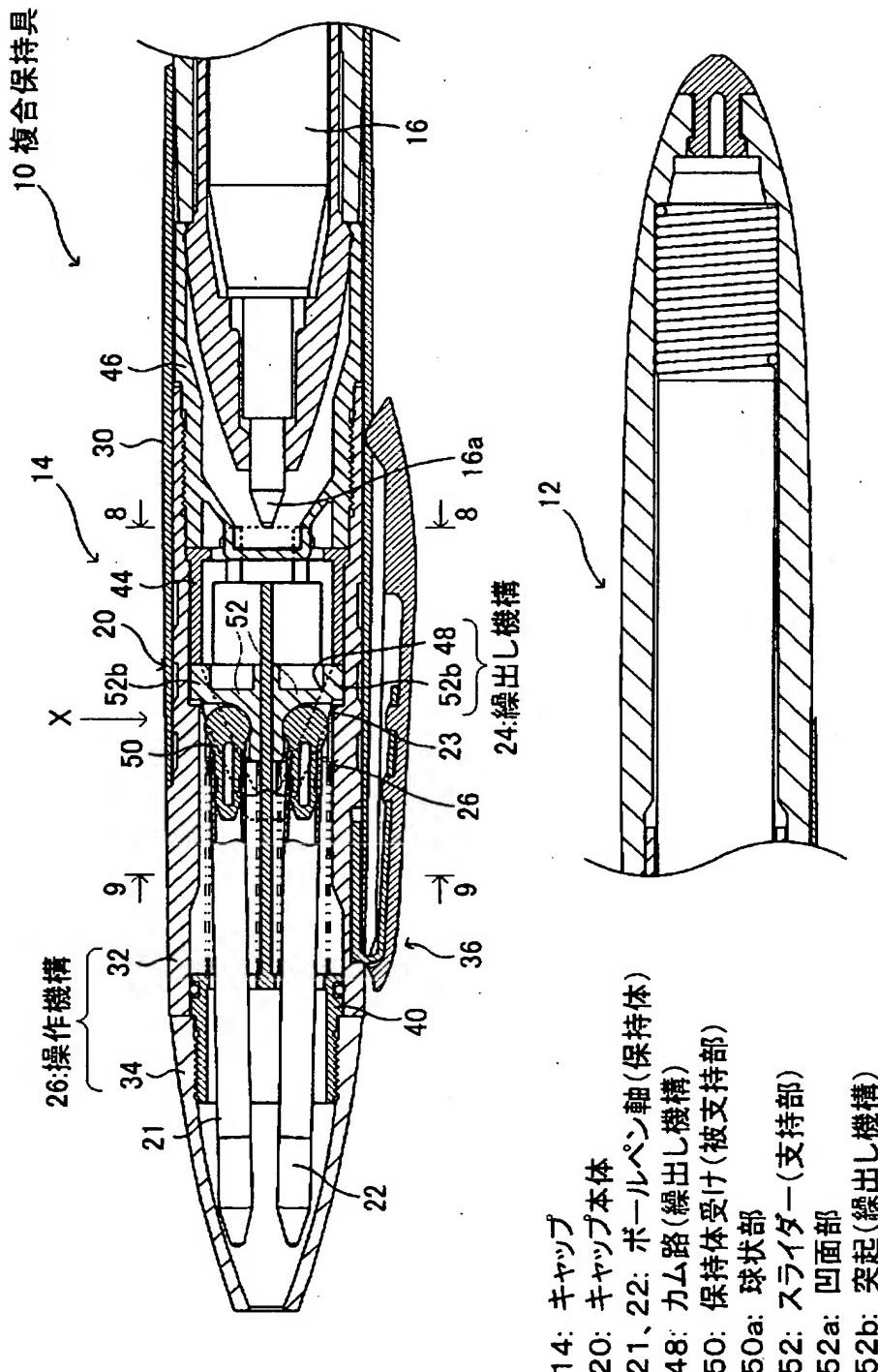
【図1】



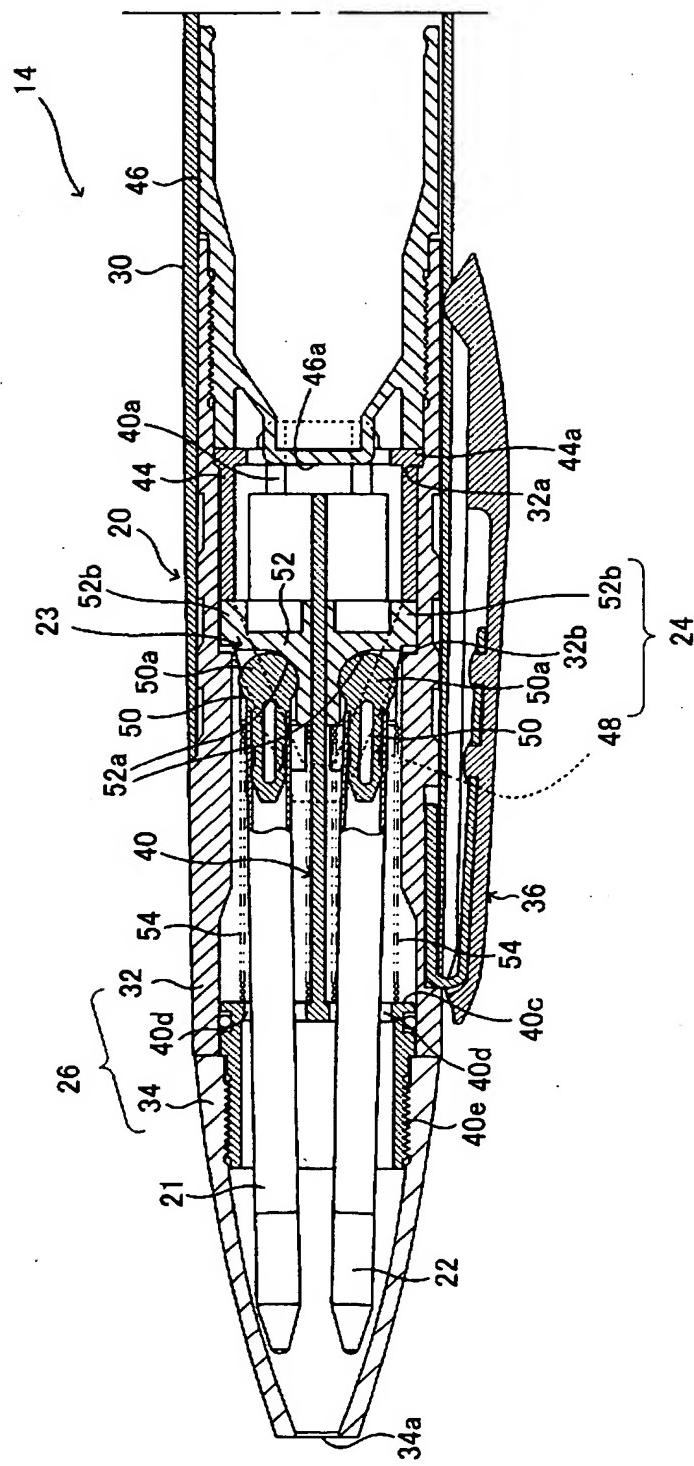
【図2】



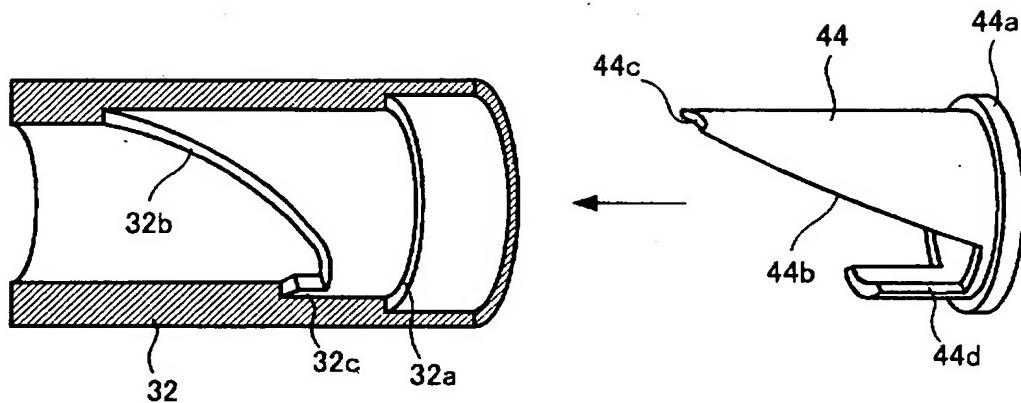
【図3】



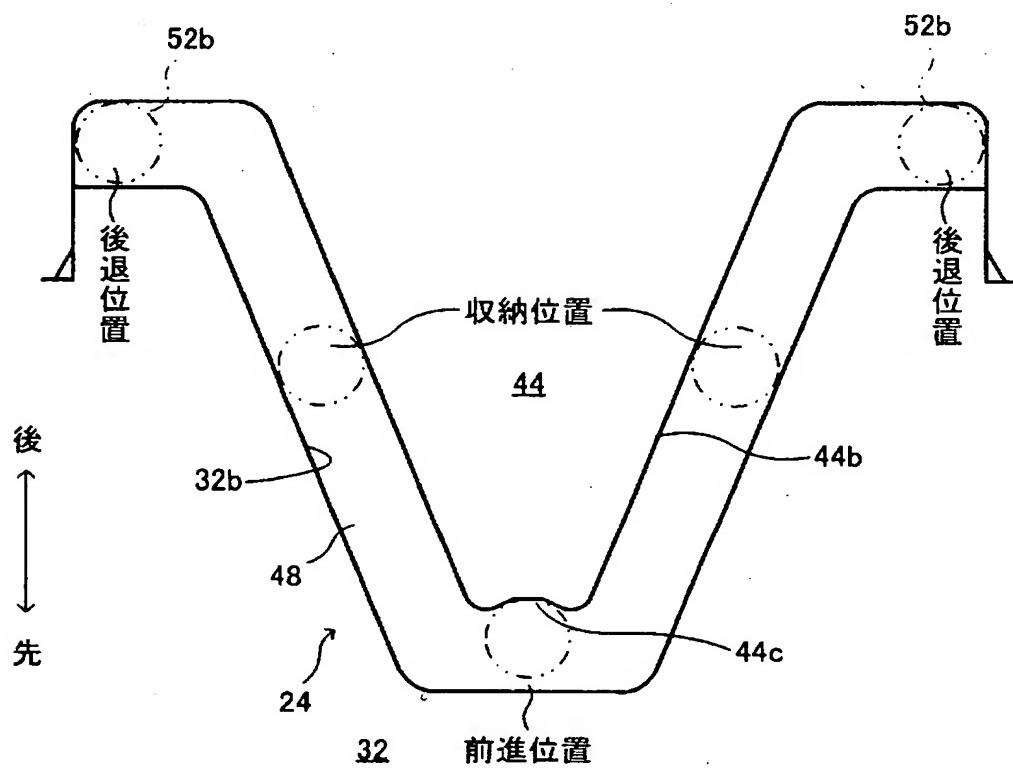
【図4】



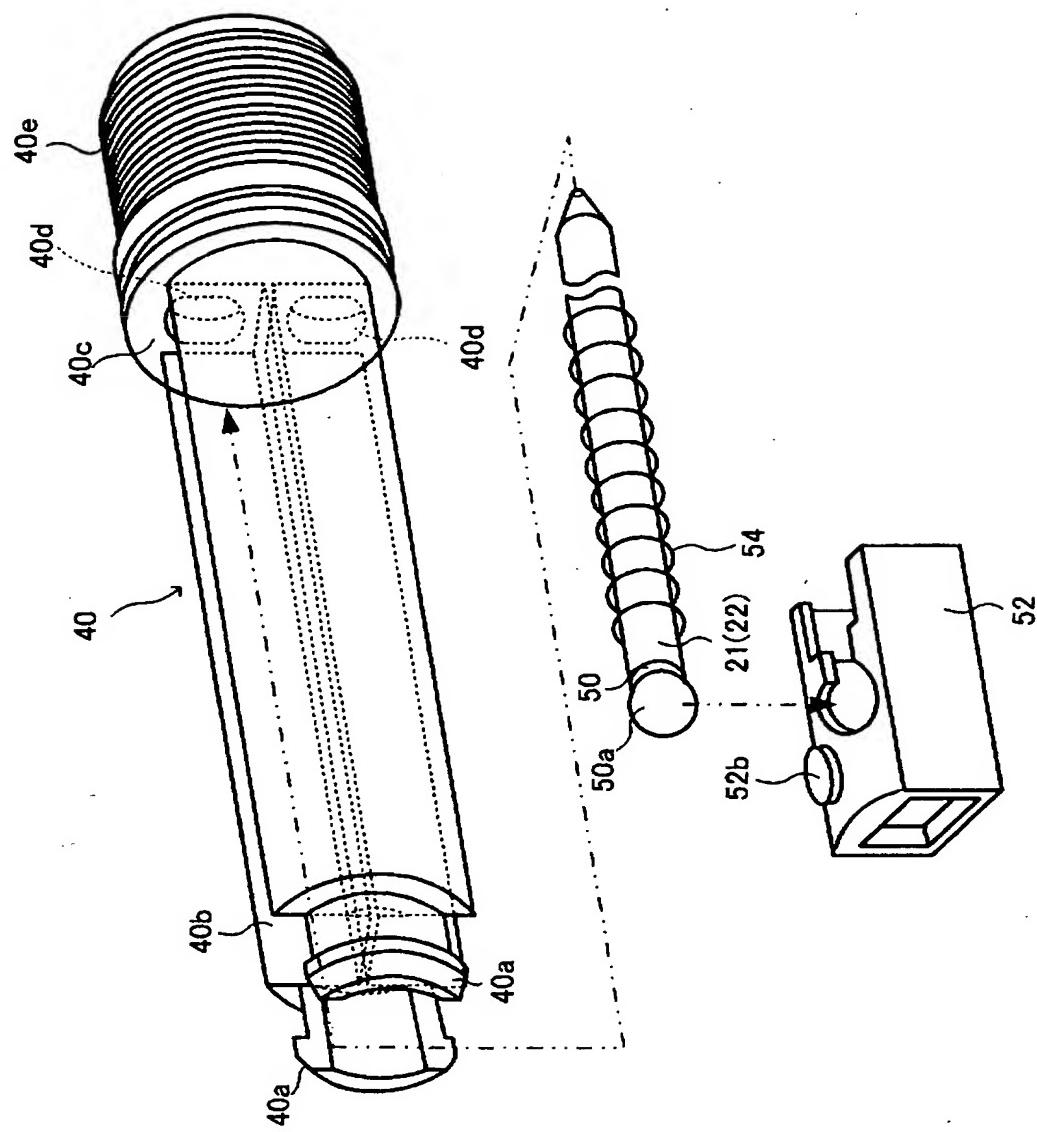
【図5】



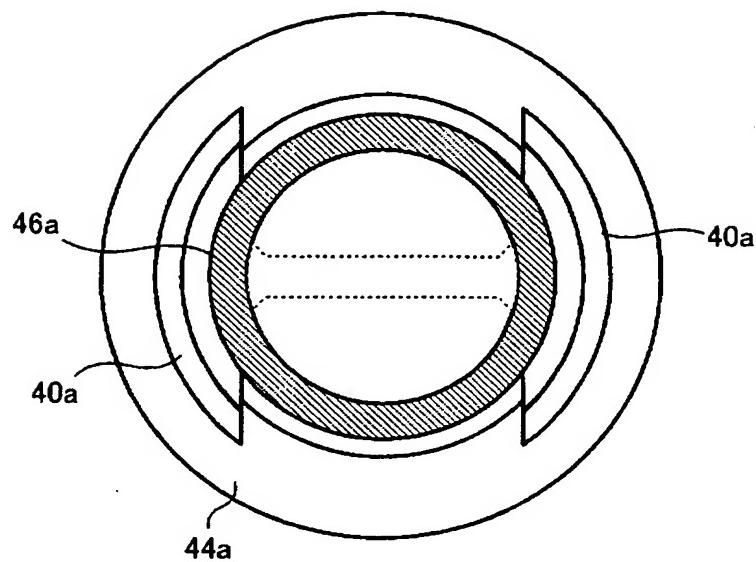
【図6】



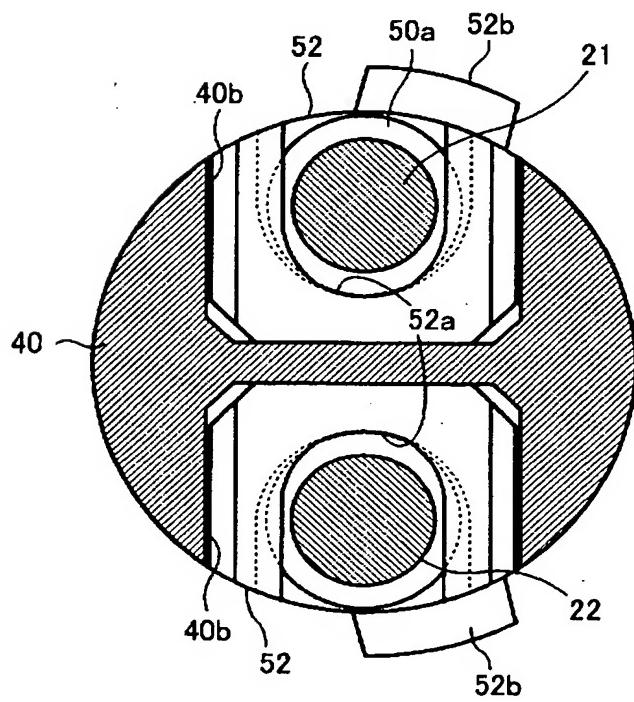
【図7】



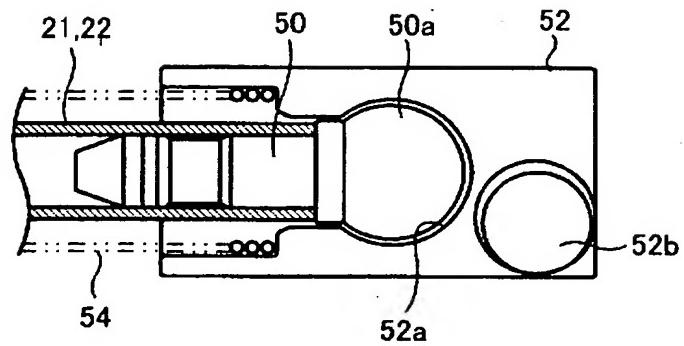
【図8】



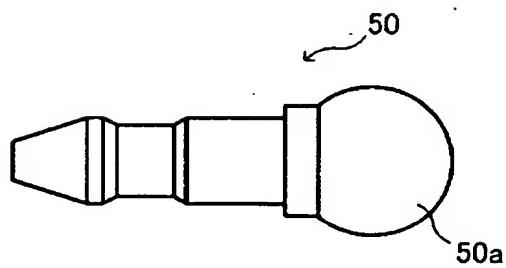
【図9】



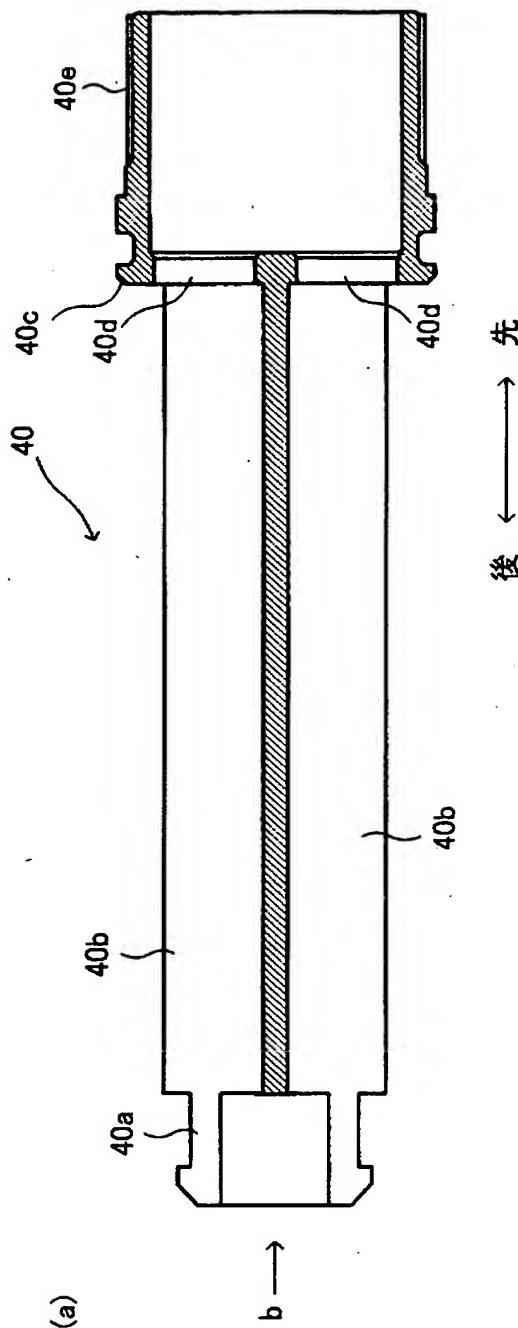
【図10】



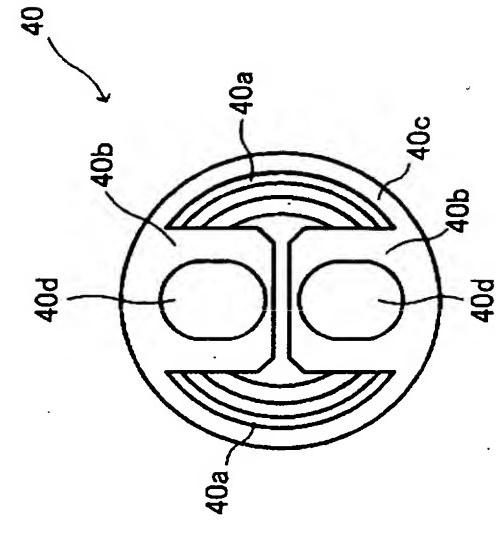
【図11】



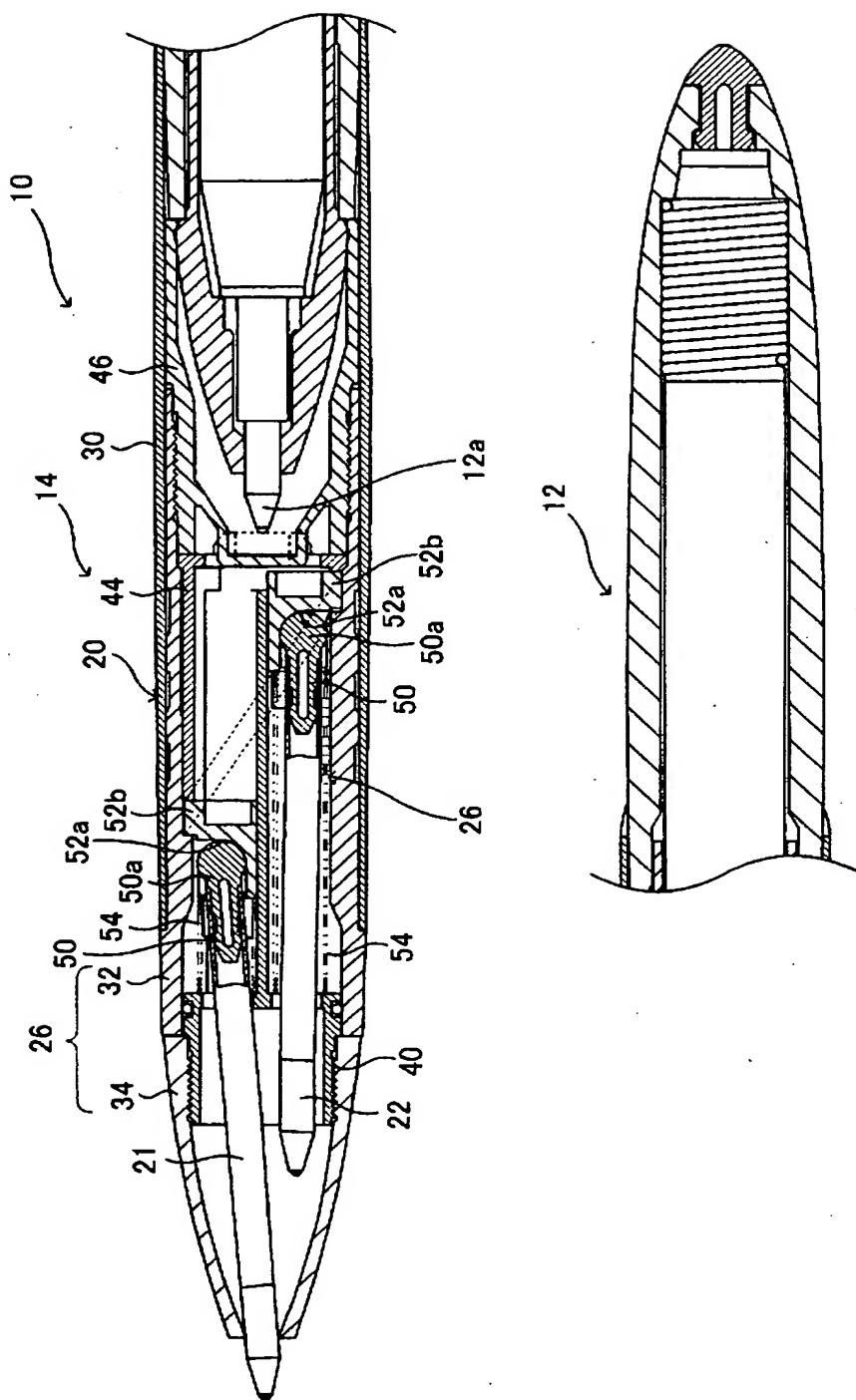
【図12】



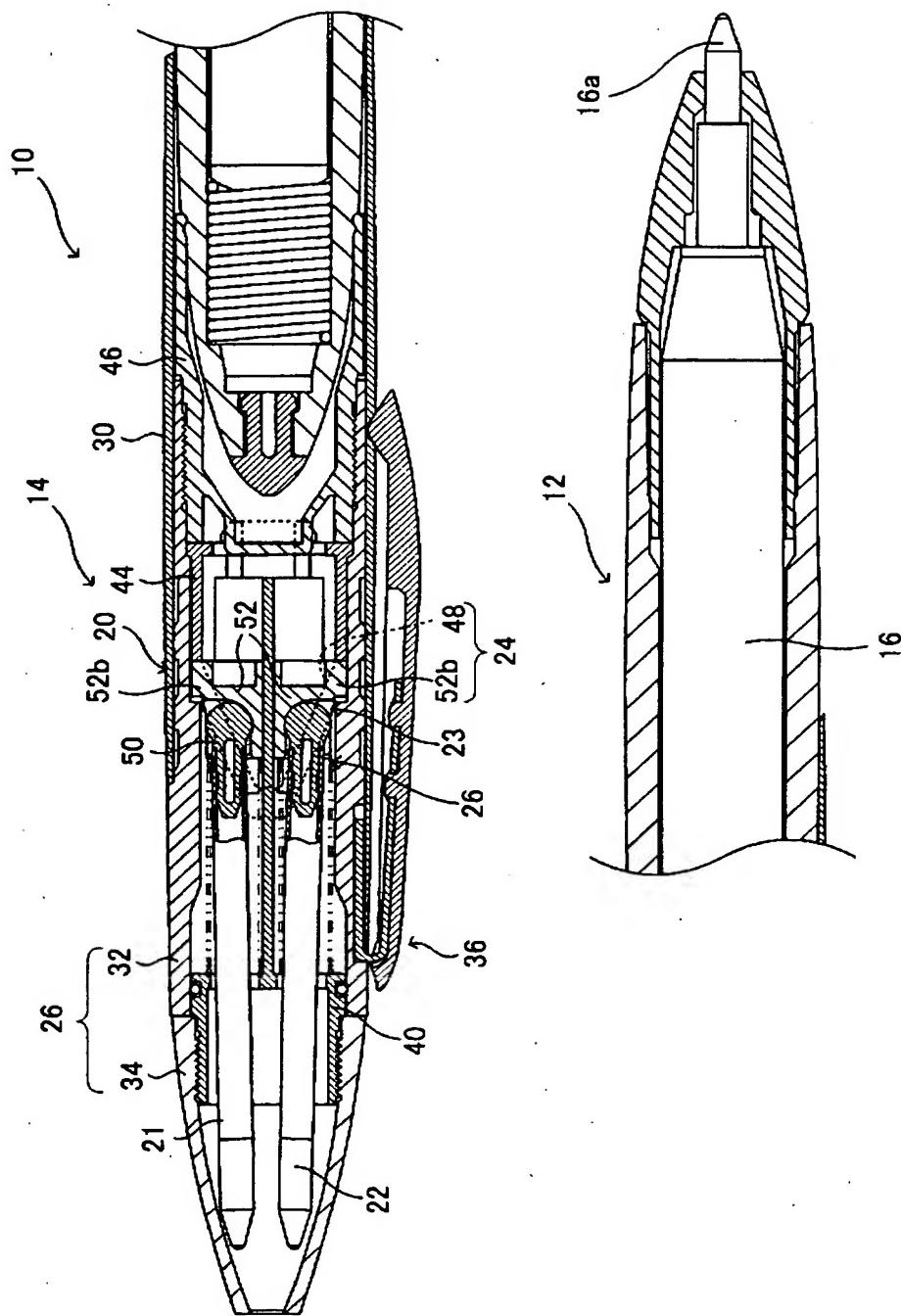
後 ← → 先



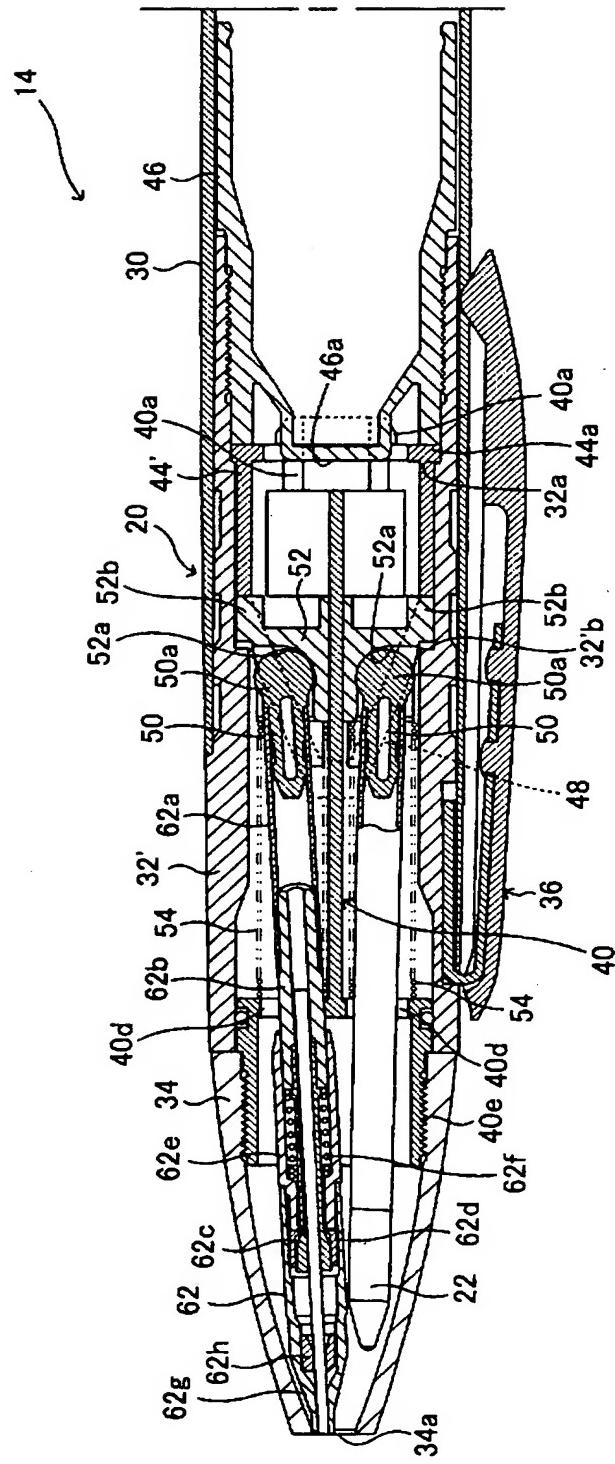
【図13】



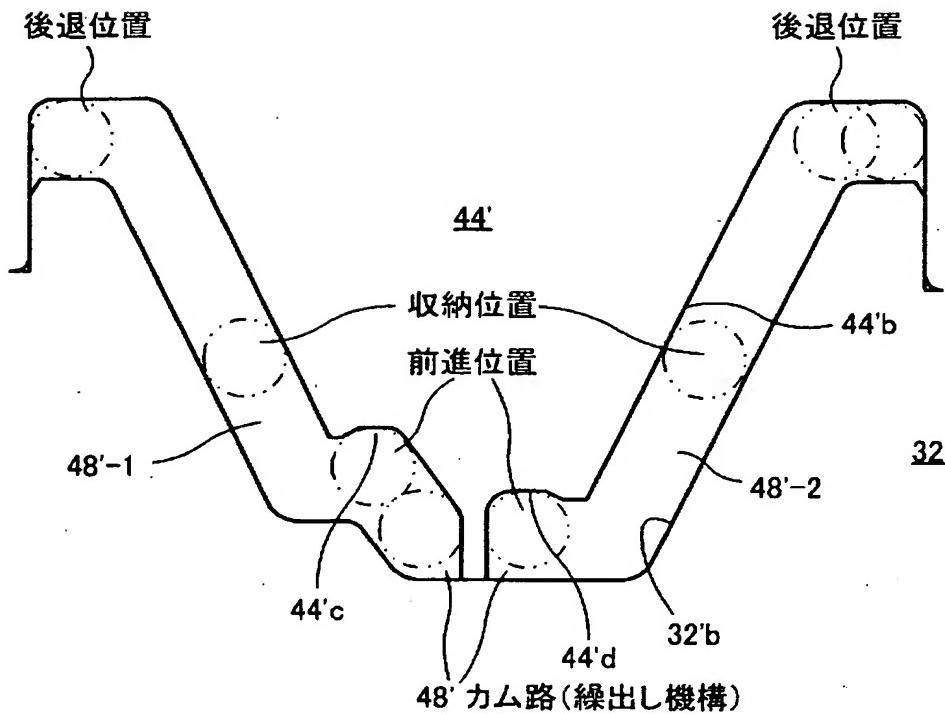
【図14】



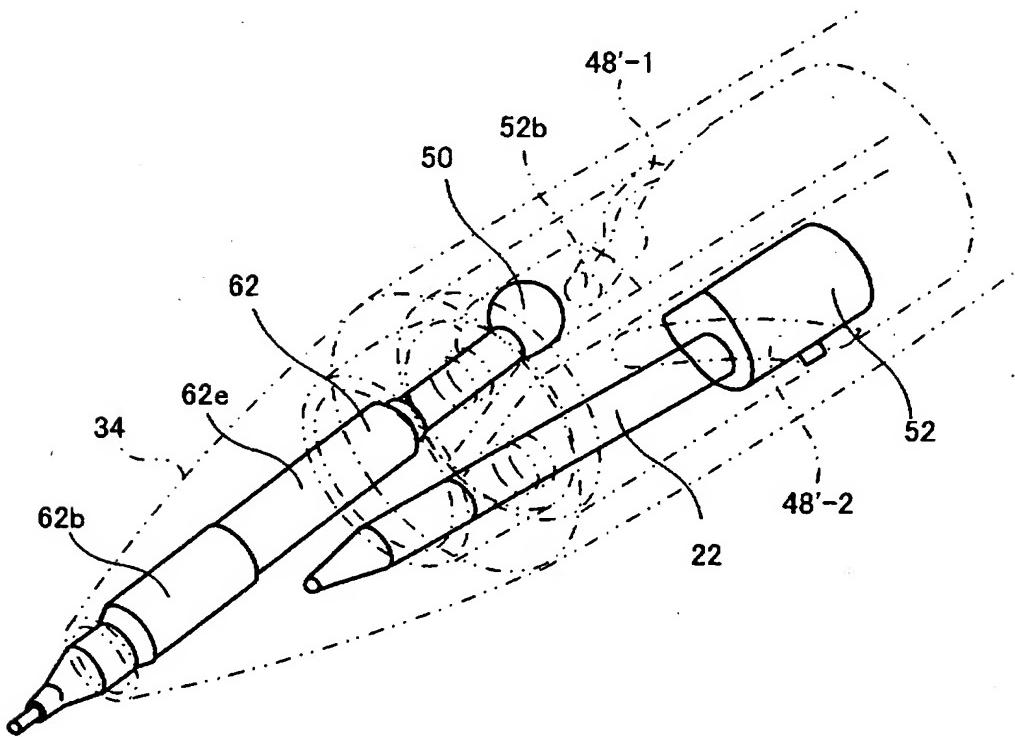
【図15】



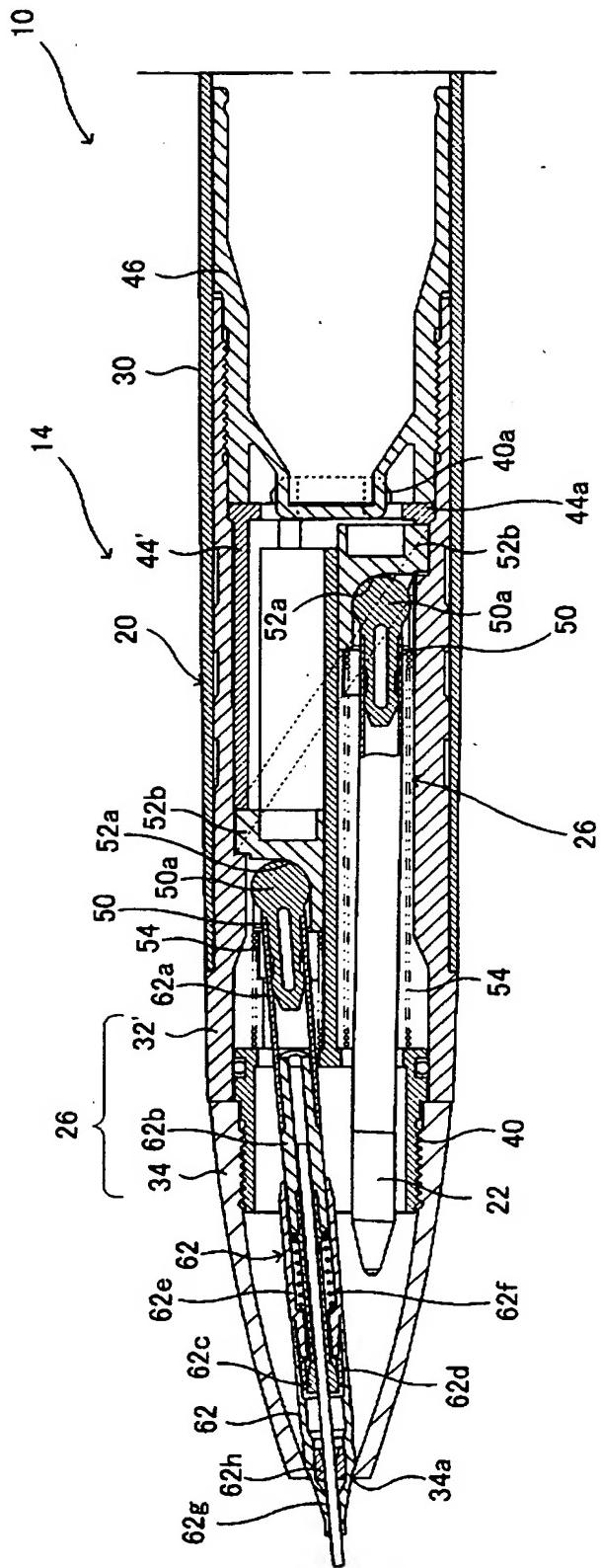
【図16】



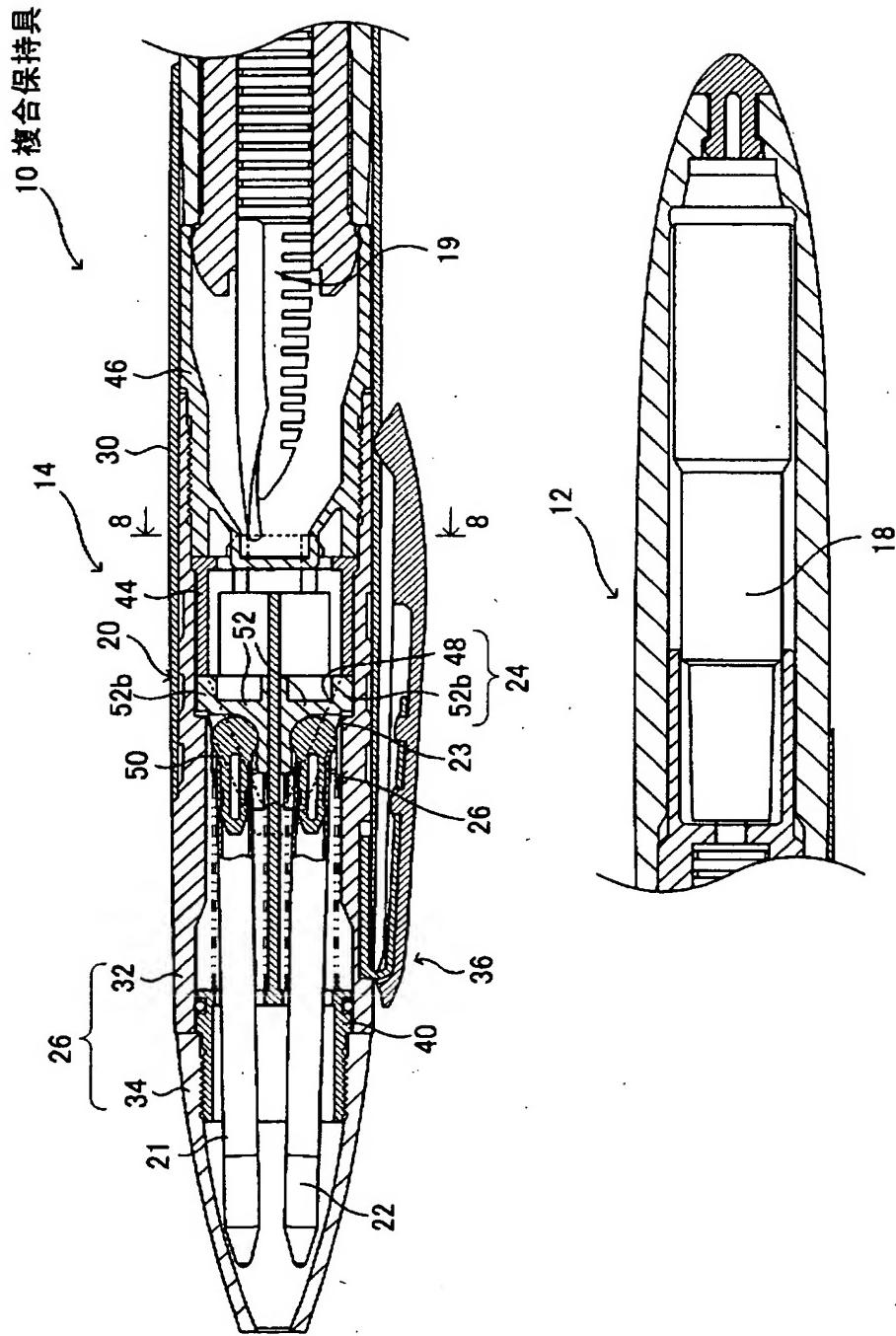
【図17】



【図18】



【図19】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 既存の複合保持具よりもより多くの、異種または同種の用途に供される媒体を保持することができる複合保持具とする。

【解決手段】 所定の用途に供される媒体を保持する保持具本体12と、該保持具本体12に被着されるキャップ14とからなり、さらに、キャップ14は、前記媒体と異種又は同種の用途に供される媒体を夫々保持した複数の保持体21，22を収納するキャップ本体20と、キャップ本体20内で前記保持体21，22を軸方向に移動可能に支持する支持部23と、キャップ本体20内に設けられ、複数の保持体21，22のいずれかを選択的に前進させる繰出し機構24と、繰出し機構24を作動するための操作機構26と、を備える。

【選択図】 図3

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2001-005638
受付番号	50100037960
書類名	特許願
担当官	第二担当上席 0091
作成日	平成13年 1月15日

<認定情報・付加情報>

【提出日】 平成13年 1月12日

次頁無

出願人履歴情報

識別番号 [000156134]

1. 変更年月日 1990年 8月13日

[変更理由] 新規登録

住 所 京都府京都市北区紫竹西栗栖町13  
氏 名 株式会社壽